

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32640

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370137

研究課題名(和文)鎌倉時代における地方仏の発生と展開に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic study on outbreak and development in the Kamakura era of local Buddhist statue

研究代表者

青木 淳(AOKI, Atsushi)

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：00305806

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)： 仏像や出土品に関して言えば地方文化を測る物差しは人により大きく異なる。本研究はそうした現状への試みとして鎌倉時代の仏像を中心とする文化財の地方的展開について実証的な視点から研究を行った。2014年度には多摩美術大学美術館において本研究を基盤とした特別企画展「祈りの道へ 四国遍路と土佐の仏像」を開催した。高知県埋蔵文化財センター等の協力により3～13世紀にかけての金銅銚、寺院跡出土の古瓦、定福寺六地藏像、竹林寺阿弥陀如来像、北寺仏像群、名留川観音堂仏像群、上分大日堂大日如来像、佐川町阿弥陀如来像など高知県を代表する仏像を展覧し、ここで光谷拓実氏による年輪年代測定法の実地検査などを公開した。

研究成果の概要(英文)： We don't have the standard which measures local culture. This study was considered about provincial development of the cultural asset which makes the Buddhist image in Kamakura era the center as a try to such current state. And we held an exhibition at Tama Art University Museum "The road of a prayer-Shikoku pilgrim and Buddhist statues in Tosa-" in fiscal 2014. And we made and opened an experiment of an annual ring dating way.

研究分野：美術史

キーワード：地方仏 年輪年代測定法 移動する仏像 快慶様式 石仏(磨崖仏)の様式

### 1. 研究開始当初の背景

(1)わが国の仏教美術、特に仏像の様式研究は今日では非常に高い精度と、科学的な方法による客観的なデータの蓄積がなされてきた。その一方で、地方に点在する、いわゆる地方仏のデータや情報は残念ながら地方史研究の範疇を超えてゆくようなものは多くない。

(2)著名な、または個性的な地方仏の多くは9～10、11世紀に多く知られているが、やはり運慶・快慶以後の鎌倉彫刻に関しては情報が散乱しているように思われる。そうしたことをふまえて本研究は鎌倉時代における文化や宗教、治国の実態などを明らかにする資料として、地方仏のデータベース化を前提として整理し、改めて鎌倉時代における文化の地方伝播、または地域独自の造形の様相やその成立過程について、実地での踏査、資料分析を中心に行ってみたいと思う。

### 2. 研究の目的

(1)長い歳月の中で、わが国では数多くの仏像が作られてきた。その代表的な作例は畿内を中心とした歴史的都市部に集中して残されているが、一方で各地に建立された大小の寺院にはその地方独自の仏教文化が成立していたことが、これまでも考古学や美術史など見地からその成果が知られる。しかしながら、そうした地方独自の様式を測る基準(ものさし)が未だに確立していない現在、限定された地域でそうしたモデルを確立してみたい。たとえば年輪年代測定法などを試みることも考えている。

(2)本研究ではさらに、特異な文化的表情を見せる地方の仏像(地方仏)について、これで行ってきた瀬戸内沿岸から広げ、全国規模で調査を行う点である。特に従来までに私自身も関係した『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代』(8巻 中央公論美術出版)などに採択されていない作例の補遺、また県や市町村の文化財データベースに踏み込んで現在漏れている鎌倉時代の作例について随時調査し発表していきたい。

### 3. 研究の方法

(1)これまで自分自身の眼で見て、現地へ赴き調査し研究するというスタイルを取ってきたが、基本的にそうしたスタンスは変わらない。研究期間中にどれだけ現地に赴くことができるかは未知なる部分ではあるが、信州より東部を中心とする鎌倉御家人達の所領とその文化財(仏像、石造遺品など)、九州地方、特に調査研究が遅れている宮崎県、鹿児島県、長崎県、四国地方、長野県、山梨県、愛知県、三重県、東北地方などで実査を行いたい。あわせて鎌倉新仏教の伝播してゆく足

跡にそっていか、造形美術が生み出されてきたかというテーマを設定してみたい。特に浄土系宗派と安阿弥様の地方的な展開、遊行する時衆(時宗)の遺品、九州より近年多く確認される禅宗関係の遺品を、地誌や伝送も含めてその造像の背景から探つてゆく。

(2)本研究は基本的には、これまで行ってきた四国、中国、九州地方各地に伝来する仏像の調査の方法を基底とし、これまで約15年間かけて高知県地域文化遺産共同調査・活用事業プロジェクトなどで培ってきた四国地方の仏像調査の経験を元に、新たな視点と研究の指針を提起してみたい。まず各地の鎌倉時代の彫刻に関して伝来、類例比較、造像技法等に関するデータベースの構築を行うとともに、年代、製作地にかかわる同定作業を行う。あわせて本研究を基盤とした展覧会を開催する。

### 4. 研究成果

(1)基礎研究に当たるものとして全期間を通じて実査を行い、平成25年度には、秋田県、山形県一帯の鎌倉彫刻ならびに経塚遺物の調査と研究を進めた。秋田・白山(姫)神社周辺の立木仏(白山神社・深沢神社)や道川神社における平安時代後期の仏像群とこの地域の関わりについて検討した。特に後三年の戦いを契機として、中央(公家社会)との関係について論じた。この問題は東北地方における立木仏信仰のような独自のものから、畿内文化の地方移入の現場を考えるきっかけとなった。

(2)平成26年度には、長野県、山梨県一帯の鎌倉彫刻の調査と研究を進めた。長野・牛伏寺周辺の修験関係の遺品や中央との関係や、鎌倉御家人(仁科氏)との関係などから覚音寺千手観音像とその像内納入品などの調査を行った。この問題は都鄙を問わず、わが国における、寺檀制度の成立とも関係したものと考えられ、高野山遍照光院や金剛三昧院に鎌倉御家人が深く関わっていることなどの問題について検証した。ほかに鎌倉時代後期の慶派仏師の作品である塩尻市・真正寺大日如来像や善光寺仏師を名乗った仏師妙海作・辰野町観音堂十一面観音像、笛吹市九品寺阿弥陀三尊像、甲府市青松院十一面観音像など信濃・甲斐地方伝来の鎌倉彫刻についての調査を行った。

(3)平成26年度には、三重県、愛知県、兵庫県一帯の鎌倉彫刻の調査と研究を進めた。三重・安養寺阿弥陀如来像、愛知・滝山寺十一面観音像、愛知・法興寺阿弥陀如来像とその像内納入品、浄雲院阿弥陀如来像とその周辺の運慶・快慶作品や中央との関係に関する研究として、兵庫・淨運寺阿弥陀如来像、萬勝寺阿弥陀如来坐像、小谷区阿弥陀如来立像(加西市)、圓教寺毘沙門天立像(姫路市)

などの調査を行った。ほかに愛知・高田寺薬師如来像の類似する金蔵寺阿弥陀如来坐像など奈良時代後期における木心乾漆像の地方伝播について検証した。

(4)平成 26 年度には多摩美術大学美術館において本助成を基盤とした特別企画展「祈りの道へ—四国遍路と土佐の仏像—」を開催した。高知県埋蔵文化財センターの協力により 3～5 世紀にかけての金銅銚、7～8 世紀の寺院跡出土の古瓦を出品、定福寺六地藏像(笑地藏)、竹林寺阿弥陀如来像、北寺仏像群、名留川観音堂仏像群、上分大日堂大日如来像、佐川町阿弥陀如来像など高知県を代表する仏像を展覧し、ここで光谷拓実氏による年輪年代の実地検査を公開した。

<http://www.tamabi.ac.jp/museum/inorinomichi/>

(5)展覧会「祈りの道へ」(多摩美術大学美術館)を契機として提起された地方仏の様式変化や造像圏の形成過程に関わるいくつかの問題点について、拙著『四国の仏像』(淡交社・2016.2)において論じた(論考「四国の仏像に会いに行こう」ほか)。高知県・養花院菩薩半跏像(重文・奈良時代)、高知・定福寺六地藏像(県指定・平安時代)、同・車瀬大日堂大日如来像(県指定・平安時代)、愛媛県・石出寺釈迦如来座像(清涼寺式・鎌倉時代)、同高縄寺千手観音像(県指定・平安時代)、徳島県・中熊観音堂十一面観音像(県指定・平安時代)、円成庵六字尊像(平安時代・市指定)、香川県・伝、池田八幡旧蔵(長勝寺・平安時代)三神像(重文・平安時代)ほか三十余体について調査と論考を行った。

(6)福島県会津地方と浜通り地方と会津=三島町天部像・平安時代、美里町吉祥天像・平安時代、浜通り大蔵寺十一面観音像・天部像・平安時代などの比較、山形県(山形市立石寺薬師如来像・鎌倉時代、極楽寺釈迦如来像・鎌倉時代)、秋田県(湯沢市・白山神社女神像・平安時代・県指定)、赤沢神社(十一面観音像・平安時代・県指定)などについて調査を行った。特に、奥州藤原氏成立前後における造寺、造仏活動における京・畿内の影響と、その一方にある奥羽地方独自の地方様式の成立過程について検討した(成果は『目の眼』紙上ほかにて発表)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 26 件)

青木 淳、「土佐の古仏とその地方的展開」、四国霊場開創 1200 年記念 祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ、査読無、2015 年、38-51

青木 淳、「修理報告 須崎市上分笹野大日堂 大日如来像 修理報告(抄録)」、四国霊場開創 1200 年記念 祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ、査読無、2015 年、116-131

青木 淳、「四国遍路と“無縁”の往来」、四国霊場開創 1200 年記念 祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ、査読無、2015 年、166-175

青木 淳、「仁平元年(一一五一)の「ふたつの顔」」、四国霊場開創 1200 年記念 祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ、査読無、2015 年、211

青木 淳、「一遍の「踊堂」と茶堂風俗」、四国霊場開創 1200 年記念 祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ、査読無、2015 年、212-215

青木 淳、「高知県・野田廃寺の専仏」、いにしへの祈りのかたち 四国の仏像、査読無、2016、34-35

青木 淳、「顔」の系譜 四国・中山間部のほとけたち」、いにしへの祈りのかたち 四国の仏像、査読無、2016、72-73

青木 淳、「様式の継承 笹野大日堂・大日如来像の思い出」、いにしへの祈りのかたち 四国の仏像、査読無、2016、120-121

青木 淳、「名留川観音堂古仏群の発見」、いにしへの祈りのかたち 四国の仏像、査読無、2016、138-139

青木 淳、「四国のほとけに出会う その地方的展開についての覚え書」、いにしへの祈りのかたち 四国の仏像、査読無、2016、170-183

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第 10 回 秋田 1 白山神社の女神像」、目の眼、査読無、475 号、2016、70-73

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第 11 回 秋田 2 土沢神社の十一面観音像」、目の眼、査読無、476 号、2016、70-72

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第 12 回 秋田 3 道川神社の毘沙門天像」、目の眼、査読無、477 号、2016、72-75

青木 淳、「アメリカがみた鎌倉のリアリズム」、目の眼、査読無、477 号、2016、78-81

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第13回  
千葉 1 寶聚寺の釈迦如来坐像」, 目の眼、  
査読無、478号、2016、76-78

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第14回  
千葉 2 神崎神社の菩薩像」, 目の眼、査  
読無、479号、2016、64-66

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第15回  
千葉 3 並木神宮寺の十一面観音像」, 目  
の眼、査読無、480号、2016、70-72

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第16回  
千葉 4 紺屋地区の馬頭観音像」, 目の眼、  
査読無、481号、2016、82-84

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第17回  
愛知 1 高田寺の薬師如来像」, 目の眼、  
査読無、482号、2016、89-100

青木 淳、「ほっとけない仏たち 第18回  
愛知 2 龍照院の十一面観音像」, 目の眼、  
査読無、483号、2016、68-70

⑳青木 淳、「ほっとけない仏たち 第19回  
愛知 3 庄中観音堂の聖観音像」, 目の眼、  
査読無、484号、2016、72-74

㉑青木 淳、「ほっとけない仏たち 第20回  
愛知 4 長興寺の鉦彫り観音像」, 目の眼、  
査読無、485号、2017、74-76

㉒青木 淳、「ほっとけない仏たち 第21回  
愛知 5 三光院の十一面観音像」, 目の眼、  
査読無、486号、2017、76-78

㉓青木 淳、「ほっとけない仏たち 第22回  
愛知 6 法興寺の阿弥陀如来」, 目の眼、  
査読無、487号、2017、72-74

㉔青木 淳、「特集 「快慶展」解説 遣迎  
院阿弥陀如来・悲田院阿弥陀如来坐像・西  
方寺阿弥陀如来像・圓常寺阿弥陀如来像」,  
目の眼、査読無、488号、2017、66-73

㉕青木 淳、「快慶とその時代」, 目の眼、査  
読無、488号、2017、74-79

〔学会発表〕(計6件)

青木 淳、「仏像のなかみ～像内納入品～」,  
上原仏像美術館、上原仏像美術館(静岡  
県・下田市) 2014年11月30日

青木 淳、「土佐、祈りの原風景」, 多摩美  
術大学美術館『四国霊場開創 1200年記念  
祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ』,  
多摩美術大学美術館(東京都・多摩市)  
2014年11月22日

青木 淳、「土佐、古仏との対話」, 多摩美  
術大学美術館『四国霊場開創 1200年記念  
祈りへの道 四国遍路と土佐のほとけ』,  
多摩美術大学美術館(東京都・多摩市)  
2014年12月7日

青木 淳、「土佐の鎌倉時代 祈りの道へ  
展で分かったこと」, 多摩美術大学美術  
館『四国霊場開創 1200年記念 祈りへの  
道 四国遍路と土佐のほとけ』, 多摩美  
術大学美術館(東京都・多摩市) 2015年  
1月17日

青木 淳、「仏像にみる土佐の中世」, 多摩  
美術大学美術館『四国霊場開創 1200年  
記念 祈りへの道 四国遍路と土佐の  
ほとけ』, 多摩美術大学美術館(東京都・  
多摩市) 2015年1月18日

青木 淳、「高知・養花院菩薩半跏像の時  
代」, 養花院・仁淀川町教育委員会、養花  
院(高知県・吾川郡仁淀川町) 2016年10  
月1日

〔図書〕(計1件)

青木 淳、「四国の仏像：いにしへの祈り  
のかたち」, 淡交社、2016年、188

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青木 淳 (AOKI, Atsushi)

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：00305806